



Laudato Si'のゴールに向かって…愛徳カルメル修道会のささやかな分かち合いを

🌸 共同体間の刺激

わたしたちの管区としても優先課題としているこのテーマで、各共同体がどんな取り組みをしているのかを、一覧表にまとめてみました。それを見ながら、共同体として、個人として、これはやってみよう!というゴールに向けての新しい取り組みが広がります。とても小さなことですが、水道の蛇口をひねる時、下に洗面器を置くと思った以上にまた利用できる水が溜まります。これも共同体の分かち合いの中から得た節水の工夫です。

また、本部の大きな庭で繰り広げられている、生ごみによる土づくりに影響され、小さな共同体では「市」の援助を得てコンパクトな生ごみを土に戻す器具を入手するに至る…という具合です。

それから、管区に「ひこばえ通信」があります。一人の姉妹が、あまり報道されない社会の問題も知らせてくれます。

毎月8日は「タリタクム」の日として、とにかく周りの問題を意識することから始めています。



🌸 ほかの修修道会からの刺激

今まで配布して下さった分かち合い集からは、共感しつつ、今までしていた地道なことに一層心を込めて取り組みたいと励ましをいただきました。このほかにも「カトリック情報ハンドブック」に掲載されたある修道会の取り組みがとても参考になったという姉妹もいました。

🌸 教育現場での取り組み

大阪愛徳幼稚園での取り組みは「シナピスガリラヤの風」に掲載されましたので、

愛徳学園からのレポートです。何枚ものレポートのほんの一部ですが、柔らかな若い心からも力をもらえる気がします。

1. LSGsに取り組んだ経緯 2020年に開かれた[教育に関するグローバル・コンパクト会議]で、教皇フランシスコが世界の教育者に向けて、地球の未来と若い世代のために、人間と教育の関係を見直し、全社会参加の新しい教育への取り組みが必要だとして、教育のための新しいグローバルな協定(世界教育協定の構築)を提案され、「教育の中に希望と平和と正義の種が息づく」という信念を支えに、勇気と希望をもって未来を見つめるよう、皆を励まされた。この要請を受けて、愛徳カルメル修道会の「ベドウルナ(愛徳カルメル会)教育者の集い」が翌年に開催され、全世界が「ラウダート・シ」6章を基にした教育法に取り組んでいるという情報を得たので、愛徳学園でもどのように取り組めるのかを考えた。

2. 授業で取り組む目的 全体で一つのことに取り組むことも、グループで取り組むことも大切だが、今回は『一人ひとりに意識してもらうこと(意識化)と、一人ひとりが自分のこととして捉え、これからの生活に活かしていくこと』を目的とした。

3. 授業での取り組み方 学習するに当たって、年齢に応じた取り組み方に気を付けた。従って、低学年には、主に調べ学習を中心にしてまとめ、自分の生き方につなげるようにし、高学年には探求学習をして、2030年までにこれらのLSGsの目的が達成されるために、各自が実行すべき事柄を表明させて(自分の意見に責任を持つ)、具体的に何を、いつまでに、どのように実行するのかまで考えさせた。

4. 実施した概要と生徒の感想

小6【目標設定】「2. 貧しい人々の叫びへの応答」。その中でも『特に困難な状況に置かれている子供たちの命を守る』ことに焦点を当てることにした。

【目標設定の理由】 児童は毎日「主の祈り」の中で「日ごとの糧を今日もお与えください」と祈っている。しかし、世界には今日の食事を食べられない人がたくさん存在する。また、愛徳学園小学校では、毎週月曜日に「おかずなし弁当」の日を設けて、おかず代を貧しい国の子供たちの支援のために献金している。そこで、貧しい国の子供たちの現状・様子を調べ、自分たちがしているおかずなし弁当や献金との繋がりや福音のイエス様のお言葉との関連を確認し、一日も早く貧しい人たちがなくなるようにと心にかかる手立てとした。

【最終目的】小6なので、『貧しい国の子供たちの声に耳を傾ける』ことに焦点を当てた。

【取り組み方法】教皇様が勧められるLSGsの7つの目標についての説明後、世界各国にある愛徳学園の姉妹校がある国々も含めた貧しい国を選び、一人に一国を割り当て、社会の現状、経済状態、家庭での生活、学習状況その他を「調べ学習」の形で取り組み、まとめて簡単なスライドを作成し、それをクラスメートに見せながら口頭で発表し、皆で共有した。その後 LSGsの呼びかけに答えて自分に何ができるかを考えたり祈りを作ったりすることにした。

【学習のツール】一人一台のICT端末を持っているので、それを使用した。

【プレゼンテーション】貧しい国の子供たちの現状、それに対し自分が考えた解決策などを発表した。

【児童の感想】①マタイ福音書の 25 章 31 節～46 節の「これらの最も小さい者の一人にしたことは、私にしてくれたことである」というイエス様のお言葉と、自分たちがしていること（おかずなし弁当をしておかず代を献金する）が繋がったのは誇らしく思った。②自分たちと同じくらいの年の子が苦しんでいると考えると胸が痛くなった。③現地に行って水が通るように支援し、その地を豊かにしたい。④貧しい国の人たちのことを考え、世界に呼びかける。⑤あまり贅沢に暮らさないと決める。⑥おやつを我慢し、食料を送る⑦世界の貧富の差がなくなるように祈る。

【児童が作った祈り】一人の児童は次のような祈りを作った。「主よ、貧しい国の子供たちが、少しでも楽しく過ごせるようにお導きください。私も協力できるように頑張ります。」

高2 ラウダートシ・アクション・プラットフォームに組み込む

LSGsの「5. エコロジカルな教育」について取り組んでもらった。もうすぐ卒業して社会に出ていく高2の生徒たちには、ラウダートシ・アクション・プラットフォームの説明後、将来周りの人にどのように伝えていきたいか、あなたが先生になったらどのように伝えていきたいかなどと呼びかけた。下記に一人の生徒の取り組みを紹介する。

<テーマの設定>5. エコロジカルな教育～人々のエコロジーの意識と行動について～「誰に、どのようなことを、どのような方法で、どのように教育したいか」

<このテーマに決めた理由> 自分自身がエコロジーの意識や行動、エコロジーの意味すらも理解していなかったので、理解の幅を広げたかったのと、調べて理解したことをみんなに伝えていきたいと思ったから。

<考察> 最初に、エコロジカル、エコロジーの意味（「環境に役立つ」「生態学的な」、環境保全（経済活動の影響で、環境保全上の支障となる原因になりそうな環境負荷を低減させる取り組み。）の意味について調べた。次に「これから誰にどのようなことを、どのような方法で」するかを考察した。現状を調べ、人々に環境保全の必要性と、私たち人間の生産活動が環境や動植物に影響を与えているということを理解してもらうために、自ら友達や家族に呼びかけをしたり行動に表したりする。更に「どのように教育したいか」を考えた。環境保全センターに行き体験学習をさせ、今私たちが過ごしている環境の現状を知ってもらい、過去の生産活動に目を向けてもらう。目的は子供たちに美しくなった世界や住みやすくなった社会を引き継いでもらうために、何ができるかを自分自身で考えることだ。

<プレゼンテーション> スライドは簡単に作成し、口頭でしっかり説明をする方法で。

<最後に5つの質問に答えるよう求めた> 以下は、今回記載の生徒のこたえ。

1. **ゴールは達成可能ですか？** はい、世界の人々の協力があれば、それ以上にもっと良いものになると思う。
2. **ゴールを達成したい気持ちはありますか？** はい、自分ができるところまで達成に向けて貢献したい。
3. **ゴールを達成するための行動に責任を持ちますか？** はい、一人ひとりの行動で世界が変わることを信じて、私も一人だということを自覚して責任を持ちたい。
4. **いつまでにどのような行動を起こしますか？** 2030年までに環境保全の認知度や必要性を高めるために世界の人が団結して大きな社会問題として扱い解決していくこと。
5. **初めの第一歩として何を行いますか？** 私たち人間の生産活動が環境や動植物に影響を与えているという現状を理解してもらうために、自ら友達や家族に呼びかけをしたり行動に表したりする。

<取り組んだ生徒たちの感想>の一部 世界に人類と地球環境全体が共存するために解決しなければならない様々な課題があることを痛感した。一部の人間だけが快適でいい思いをするのではなく、同じ地球で生きる生き物全員が誰も犠牲にならずに支え合っていけるような努力をしていきたいと思った。今からできることに積極的に取り組んでいきたい。